

みんなで発信！ 地域の情報

機関紙で届ける地域の思い

20年以上の歴史がある連合町内会の機関紙「新川」。各町内会の出来事や行事のお知らせなどを載せています。記事は各町内会の広報部員たちが作成。その記事の集約や調整、機関紙全体のレイアウトを担当しているのが広報部長の下山徳蔵さんです。

編集の責任と誇り

広報部員になるまでほとんど文章を書いたことがなかったという下山さん。最初は苦労の連続だったといいます。読みやすい記事、みんなが楽しんでくれそうな企画を考え、工夫を重ねてきました。「そうやって自分が考えたものを、読んで



下山さんが毎回頭をひねっているコラム「一口メモ」は人気コーナーです

レイアウトを工夫して、写真をたくさん載せています

連合町内会機関紙「新川」

くれる人がいて、このコーナー良かったよ、などと言ってもらえると、苦労したかいたがあつたなと思いますね」と下山さんは話します。

下山さんが「新川」を作る上で気をつけていることは、自分の文章に責任を持つこと。各記事には筆者の名前を入れるようにしています。「ほめられることもあれば、これは違うのではと言われることもあります。そんな時、自分がどう思っただけの記事を書いたのか、しっかりと考えたか、持っていることが大事だと思いません」と語る下山さんからは、6年間広報部長を務めた誇りが感じられました。

地域を知るきっかけに

「新川」は町内会の機関紙ですが、町内会への加入の有無にかかわらず、地区内の全世帯に配布されています。家に届くことで目に触れる機会があれば、少しでも読んでもらえるはず、地域のことを知るきっかけをつくることのできるはず、との考えからです。「新川」を手取ることで、地域への参加のきっかけになれば



取材中、行事参加者に声をかける下山さん(左端)

うれしいですね」と話す下山さん。

行事の予定を見てお祭りなどに参加する人も多いそう。ただ、「新川」の発行は年4回。どうしても時期が合わず、掲載できない情報も出てきてしまいます。そこで最近は各町内会ごとに機関紙を出すなど、より地域に密着した情報を発信するための工夫も行われています。

自分たちの手で、地域の情報を発信する。誰かが発信した情報を受け取り、地域へ一歩出掛けてみる。そのやりとりの積み重ねから地域の輪が広がっていきます。あなたも参加してみませんか？

広告